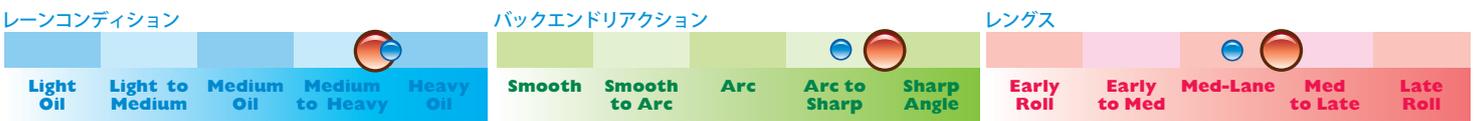
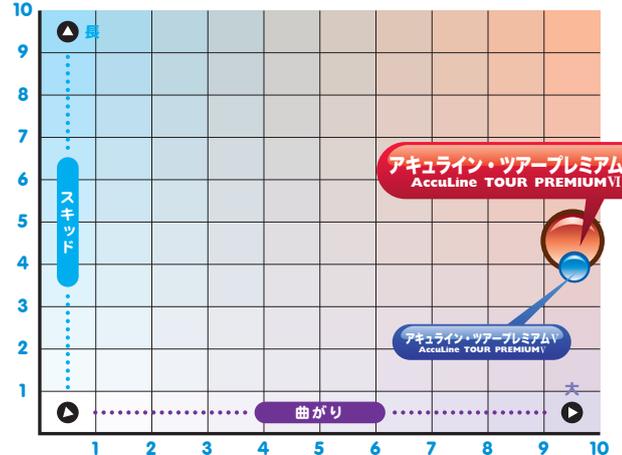
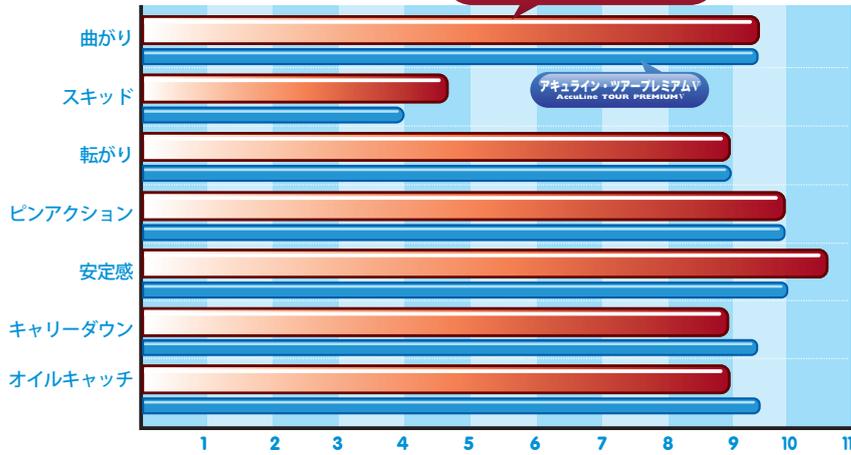
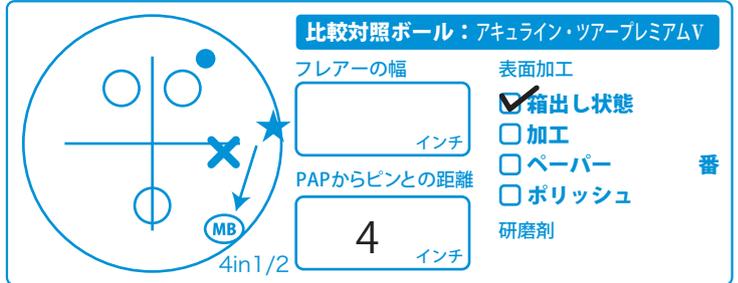
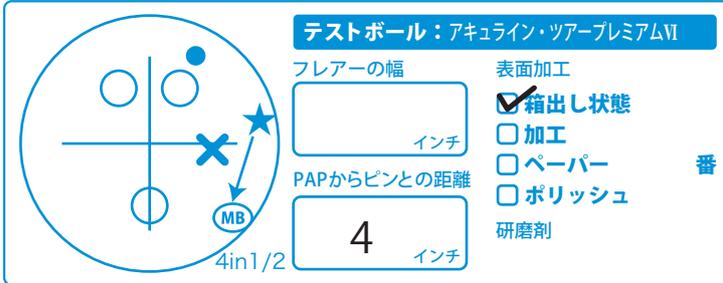


# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>アキュライン・ツアープレミアムVI</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.460</b>	△RG <b>0.055</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール



### ボールの評価

ABSの中でロングランかつ、人気のシリーズと言えば「アキュライン・ツアープレミアム」と言えるでしょう。そのツアープレミアムシリーズも6作目で、今回も日本ならではの匠製法と拘りつくした性能で発売されます。ツアープレミアムと言えば、強いカバーから弱いカバーまで幅広く抜群な性能を出せる汎用性が高いプレミアムコアが特徴であり、ファンの間ではプレミアムコアのボールは「買い」とも言われています。このツアープレミアム6はそのコアを使用し、カバーにはナノタン 2.5 アクティブハイブリッド(2パール 1ソリッド)を採用致しました。ツアープレミアム4はナノタン 2.0 アクティブハイブリッド(2パール 1ソリッド)、ツアープレミアム5はナノタン 2.0 アクティブハイブリッド(1パール 2ソリッド)で、3つの比較はスキッドレベルで4>6>5とツアープレミアム6は中間に位置しています。今回のツアープレミアム6はキャッチでやや強めに出ていたツアープレミアム5の強さを感じながらもツアープレミアム4のスキッド感を出せる領域を目指したもので、ハイブリッドでもパール含有量が多いのでカバーストックが若干強く、十分なスキッドと程よいキャッチを感じて頂けるでしょう。動画収録時にも感じたことですが、ツアープレミアム5よりも内から幅を取って投球出来るイメージがあります。それはツアープレミアム5ではやや手前から曲がりが入る分奥の動きも滑らかになる傾向ですが、ツアープレミアム6はキャッチは強化されてもスキッドがあり、バックエンドにパワーが残るので、出し戻しのラインでより幅を取れるからです。オイルキャッチとバックエンドの動きはキャッチさせ過ぎても動きが弱まるし、スキッドさせ過ぎても弱く感じます。その点このツアープレミアム6は絶妙な配合で仕上がったと思います。

### 特記事項

**ツアープレミアム4と5双方の秀でた走りとバックエンドの動きを抽出したボール。もの凄くバランスが良く、コントロールと攻撃性を兼ね備えたボールです。**